

高等学 校

平成23年度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	3
V	研究の内容	4
VI	研究の成果	24
VII	今後の課題	24

特別活動	「コミュニケーション能力を育み、よりよい人間関係を作る能力や態度を育成する指導の工夫」
------	---

I 研究主題設定の理由

教育基本法等の改正を踏まえて改訂された新学習指導要領では、学力の3要素を（1）基礎的・基本的な知識・技能の習得、（2）知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、（3）学習意欲、としている。

新学習指導要領は、小学校では今年度から、中学校では平成24年度から、また高等学校では平成24年度から数学及び理科が先行実施され、平成25年度から全面实施となる。

新教育課程への移行期間である今年度の教育研究員の全体テーマ「新学習指導要領に対応した授業の在り方」を受けて、高等学校の部会共通テーマは「思考力・判断力・表現力の育成を図るための授業等についての実践研究」とされた。

本部会では、研究を始めるに当たり、高等学校学習指導要領に示されている特別活動の目標などから、まず特別活動における思考力、判断力、表現力について次のように定義した。

1 思考力

様々な人間関係について振り返り、集団の中での行動の仕方や生き方を自主的に考える力

2 判断力

集団活動のあらゆる場面において、自主的・実践的な態度で物事を選択決定する力

3 表現力

他者の言葉や意見に耳を傾け、集団の中で自分の考えや思いを言葉などにまとめ他者に伝える力

また、生徒にこれらの力を育むためには、他者の言葉や意見に耳を傾け、自分の考えや思いを適切に表現するコミュニケーション能力の育成が必要であると考えた。

そこで本部会では、コミュニケーション能力を特別活動における思考力、判断力、表現力の総合的な力であると捉え、部会主題を「コミュニケーション能力を育み、よりよい人間関係を作る能力や態度を育成する指導の工夫」として、コミュニケーション能力を育む指導について研究を進めることとした。

II 研究の視点

普段の学校生活の様子をうかがうと、行動を起こす前から挫折や失敗を恐れて、実践的な態度を取れない生徒が多く見られる。また、他者との良好な人間関係を築く自信をもてずに、学校生活に対して無気力になる生徒も目に付く。さらに、少子高齢化や核家族化などの社会の変化により、生徒同士の人間関係の希薄さが目立ち、他人に対して思いやる気持ちが弱くなっている。

本部会の研究員が所属する学校の生徒の実態を見ても、望ましい人間関係を形成する上で必要な能力や態度が未成熟であり、次のような課題が挙げられる。

- ・ 自己紹介ができない
- ・ 生徒同士でコミュニケーションがとれない
- ・ 他者と適切な言葉で会話ができない
- ・ 感情のコントロールができない
- ・ 知らない人の前で話ができない
- ・ クラス替えをすると、新しいクラスで人間関係を築かずに前のクラスの生徒で集まる

これらの課題は、自分に自信がもてず、人間関係を築くための意欲や態度が不足しているため、他者とコミュニケーションを取ることが難しくなっていることが原因と考えられる。そこで、生徒一人一人にコミュニケーション能力を育ませるため、話し合い活動を意図的・計画的に充実させるための取組の工夫が必要である。このため、話し合い活動を充実させ、生徒のコミュニケーション能力を育む指導の視点を次の3点に整理し、研究に取り組むことにした。

- 1 「集団を活動単位ごとにグループに分けて、生徒一人一人の発言の機会を増やすことで、話し合い活動を活発にする。」

集団全体での話し合い活動では、自分の考えを出しにくかったり、人任せにしたり、活動内容を十分に把握できなかつたりする生徒が見られる。そこで、適当な人数でグループを分けることにより、生徒に発言しやすい雰囲気を作り、自分の意見を出しやすくする。また、グループ内で生徒の発言をまとめたり、話し合う内容を明確にしたりするためのグループリーダーを決めることで、話し合い活動を活発にして、生徒のコミュニケーション能力を育み、人間関係の構築に必要な態度を育成する。

- 2 「ワークシートを活用して話し合う内容や話し合いの状況を整理することで、話し合い活動を活発にする。」

話し合い活動をする際に、ワークシートを用いて、グループでの話し合った内容や話し合いの状況をまとめられるとともに、各グループに発表する機会を設けることで、集団全体の話し合い活動を充実させることができる。

- 3 「各グループのグループリーダーによる事前打合せを行うことで、クラス全体の話し合い活動を活発にする。」

文化祭などの学校行事について、集団全体で話し合いをさせる前に、グループリーダーによる事前打合せを行う。このことで、各グループの考え方をあらかじめグループリーダー全体に共有させることで、集団全体の話し合い活動を円滑にする。

Ⅲ 研究の仮説

学校生活の様々な場面において、実際に行動を起こす前から挫折や失敗を恐れて、自分に自信がもてずに、実践的な態度を取ることができない生徒が多く見られる。

また、他者との良好な人間関係を築く能力が十分ではないため、人間関係が希薄であり、他人に共感し思いやる力が弱く、学校の中で自分の居場所が見つからずに、無気力傾向に陥る生徒も少なくない。

こうした現状において、学校生活の中で生徒が望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい集団の形成に参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な生活態度と、

他者と協力しながら行動しようとする積極的な意欲を育成することが課題である。

そこで、生徒同士の話し合い活動の充実を図り、生徒のコミュニケーション能力を育ませることで、集団において生徒一人一人の思考力、判断力、表現力が育成されると考えた。また、学校やクラスでの活動を明るく豊かにするより良い人間関係をつくる態度や能力を養うことができると思った。

IV 研究の方法

生徒の人間関係の希薄さや他人に共感して思いやる力が弱くなっていること、挫折や失敗にこだわり自信がもてず、無気力傾向などに陥っている現状を解決するため、生徒の望ましい集団活動を通して、集団の一員として、よりよい集団の形成に参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な生活態度を育成するとともに、他者と協力しながら行動しようとする積極的な意欲を育成することが課題である。本研究では、これらの課題解決に向けて特別活動の取組の改善・充実のため、共通の評価規準を策定し、これに基づいてホームルーム活動と生徒会活動の二つの事例について実践研究することで仮説の検証に取り組む。

1 ホームルーム活動

各研究員が所属する学校では、自分に自信がもてずに、他者に対して自分勝手な発言をしたり、自分の考えを伝えられなかったりするなど、コミュニケーションを適切に行うことができない生徒が多い。そのような生徒たちに対して、文化祭の取組で役割ごとにグループに分けるとともに、リーダーを中心にグループ内での話し合いを繰り返させることで、生徒一人一人に自己の役割を理解させ、グループにおいて責任をもって取り組んでいける自主的・実践的な活動ができるようにする。各グループの話し合い活動については、ワークシートを活用させて、グループの進行状況や話し合った内容を記録させる。

2 生徒会活動

生徒会役員に文化祭企画に参加させ、話し合い活動の機会を増やすとともに、自主的な調べ学習を実践させることにより、コミュニケーション能力を育ませることで、生徒の思考力・判断力・表現力を高めさせる。さらにワークシートを利用して、話し合い活動の進行状況や話し合った内容を記録させ、整理させることで、課題を把握させ、生徒同士が協力して作業を行えるようにする。

二つの実践事例では、文化祭企画案決定当初の気持ち（1学期6月）、夏季休業中の変化（9月1日）、文化祭当日までの取組（文化祭終了後のホームルーム活動）についてのアンケートを合計3回実施する。それぞれのアンケート結果を分析し、自信のもち方、他の生徒への対応など、各節目において生徒の意識がどのように変容するかを分析する。また、ワークシートにより、企画決定当初から文化祭終了までにおいて、各グループの話し合い活動の状況を確認する。さらに、生徒同士あるいは教員との会話や表情等も含めて、継続的に生徒の変容を観察していく。

V 研究の内容

1 研究構想

全体テーマ 新学習指導要領に対応した授業の在り方について

高校部会テーマ 思考力・判断力・表現力の育成を図るための授業等についての実践研

教科等における「思考力・判断力・表現力」の定義

思考力 様々な人間関係について振り返り、集団の中での行動の仕方や生き方を自主的に考える力

判断力 集団活動のあらゆる場面において、自主的・実践的な態度で物事を選択決定する力

表現力 他者の言葉や意見に耳を傾け、集団の中で自分の考えや思いを言葉などにまとめ他者に伝える力

各教科における「思考力・判断力・表現力」の育成の現状と課題

現状 ・少子高齢化や核家族化などの社会の変化により、生徒の人間関係の希薄さや他人に共感して思いやる力が弱くなっている。

・挫折や失敗にこだわって、自信のない生き方をしている生徒や、無気力傾向などに陥る生徒も見られる。

課題 ・望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてよりよい集団の形成に参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な生活態度と、他者と協力しながら行動しようとする積極的な意欲を育成することが課題である。

(特別活動)部会主題

コミュニケーション能力を育み、よりよい人間関係を作る能力や態度を育成する指導の工夫

仮説

生徒同士の話し合い活動の取組の充実を図り、生徒のコミュニケーション能力を育ませることで、集団において生徒一人一人の思考力、判断力、表現力が育成されると考えるとともに、学校やクラスでの活動を明るく豊かにするより良い人間関係をつくる態度や能力を養うことができると考えた。

具体的方策

生徒一人一人が自分の役割を遂行できるように指導を工夫し、自主的・実践的な態度の育成する。さらに、話し合い活動などにより言語活動の充実を図り、コミュニケーション能力の向上を図る。

検証方法

ホームルーム活動や生徒会活動での生徒の意識の変容を確認するために、アンケートやワークシート及び観察を実施し、分析することで検証する。

2 実践事例

ホームルーム活動や生徒会活動における学校行事の評価について、共通の評価規準を以下のように作成した。

評価規準

	ア 集団活動や生活への関 心・意欲・態度	イ 集団や社会の一員として の思考・判断・実践	ウ 集団活動や生活について の知識・理解
単 元 の 評 価 規 準	①話し合い活動において、積極的に自分の意見を述べたり、他者の意見を聞いたりできる。(表現力) ②責任感をもって、作業に積極的に参加できる。 ③集団活動において、より良いものを作り上げる努力をすることができる。	①集団の中での行動の仕方を自主的に考えられる。(思考力) ②自主的な態度で物事を選択決定し実践することができる。(判断力) ③話し合い活動において、他者の言葉や意見を受けて、考え、判断を下し、自分の考えや思いを言葉などにまとめて、表現できる。(思考力、判断力、表現力)	①よりよい集団の形成や諸問題を解決する方法を理解している。 ②役割の内容を理解している。 ③集団生活の充実と向上を図ることの重要性を理解している。

(1) 実践事例 1

科目名	ホームルーム活動	学年	2 学年

ア 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

ホームルーム活動 「文化祭におけるクラス企画の取組について」

～ホームルーム内の組織づくりと自主的な活動、コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立～

イ 単元（題材）の指導目標

- (ア) 文化祭クラス企画を通して、生徒一人一人に組織の一員としての役割と責任を自覚させ、自主的、実践的な態度を育てる。
- (イ) 文化祭クラス企画を通して、クラス全体の話し合い活動を活性化させ、生徒一人一人のコミュニケーション能力の向上を図る。

(ウ) 成功体験を通して、集団活動や自らの実践のよさを理解させ、生徒一人一人に自信をもたせる。

ウ 単元（題材）の指導計画（8時間扱い）

本単元（題材）では、文化祭クラス企画を通して、生徒一人一人に役割を分担することで、ホームルーム内の組織づくりと自主的な活動を促し、コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立をねらいとする。

時間	学習内容	学習活動	評価規準 (評価方法)
1 (6月)	・文化祭クラス企画についての説明	・文化祭実行委員から、文化祭クラス企画について説明する。 ・過去の企画内容を振り返る。 ・テーマ、企画について、アンケート①を記入する。	・イ③、ウ① (観察) ・イ②、ウ① (観察) ・ア① (アンケート)
2 (7月) 本時	・文化祭企画の決定	・クラス企画についてワークシートを記入する。 グループ毎の発表を聞き、企画案をまとめる。 ・実行委員が企画書を作成する。	・ア① (ワークシート) ・ア② (企画書)
3 (7月)	・文化祭企画準備①	・過去の文化祭企画ビデオを見て今後の課題について検討する。	・ウ② (観察)
4 (7月)	・文化祭企画役割分担	・企画が決まったら、運営のために何が必要か検討する。 ・クラスの中での役割分担を決める。	・ア① (観察) ・ア① (観察)
5 (7月)	・文化祭活動計画と準備	・7月～9月までの活動計画を作成する。	・ア③ (観察)
6 (9月)	・文化祭に向けての準備	・アンケート②を記入する。	・ア② (アンケート)

7 (9月)	文化祭(1・2日目)	・公演本番に向けての確認 ・担任・副担の教師を中心に観察・助言する。	・ウ②(観察) ・ア③、ウ③ (観察)
8 (9月)	・文化祭企画反省	・振り返りアンケート③を記入する。文化祭企画を、振り返える作文を書く。	・ウ①②③(アンケート、作文)

本校の文化祭企画は「展示」「芸能」「発表」「飲食」部門に分けられ、一クラス一つの企画を行う。また、文化祭クラス企画の宣伝として、各クラスが垂れ幕を作成することになっている。

(ア) 文化祭実行委員

文化祭クラス企画の取組は、基本的に文化祭実行委員によって進められる。文化祭実行委員は、各ホームルームから選出された2名の委員からなり、昼休み及び放課後に委員会を開いている。委員会の活動は、学校全体の文化祭の運営及びクラス企画の立案を主に活動している。

(イ) クラス文化祭委員

クラス文化祭委員は、文化祭実行委員からの連絡を受けて、実際にクラスの企画及び運営を行う。

(ウ) 役割分担

クラスの生徒全員で文化祭企画に取り組むため、下記のような役割と内容などを決める。

役 割	内 容	人 数
演技発表	シンクロナイズドスイミングの演技(当日の音響係)	男子14(3)
広報活動・飲食配布	クラス文化祭企画の広報、宣伝活動及び当日スタッフ	女子18
垂れ幕作成	学校で定められている規格に合わせた垂れ幕の作成	男女 5
会場準備	会場作成、案内等の作成	全員35

(エ) 企画リーダー(グループリーダー)

クラス内で一人一役として役割を担当し、その中から企画リーダーを決める。

エ 本時(全8時間の2時間目)

(ア) 本時の目標

- ① グループでの発表内容を理解し、自身の考えを適切に表現する。
- ② 話し合い活動の中で、他の生徒の意見を尊重する姿勢を身に付ける。

(イ) 本時の展開

過程	時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
導入	5分	・前時の振り返り ・ワークシートの説明	・ワークシートを利用したグループでの話し合いについて説明する。	・ア③、イ①、 ウ①(観察)

展開	35分	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの話し合い活動 ・ワークシートの記入と提出 ・文化祭の決まりの理解 ・文化祭の具体例の理解 ・クラスとしての企画を何にするのかを考え、グループごとに発表 ・企画の決定 ・企画書の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを回収し、何を書いたか簡単に確認をする。 ・文化祭企画の制限事項を文化祭実行委員に説明させ、模擬店や展示、発表部門の内容を理解させる。 ・意見を集約し、クラス企画を決定させる。 ・提出期限までにクラス文化祭委員に企画を作成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ア①②③（観察） ・ウ②（ワークシート） ・イ①（観察） ・イ①（観察） ・イ③（発表） ・ア②（企画書） ・ア②（企画書）
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめ ・クラス全員が参加する意義の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容についてまとめてみる。 ・次時までの課題について説明する。 ・決定事項についてクラス全員が参加する必要があることを伝え、次時では具体的な係決めを行うことに言及する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イ①（観察） ・ウ③（観察）

オ 本時の振り返り

- (7) 文化祭実行委員から本校の文化祭の決まりや文化祭の意義、企画・テーマなどをクラス全員に説明し、クラスの生徒がそれらを理解するとともに、できる事とできない事を把握させることができた。そのため、その後のクラス企画についての話し合いに、多くの生徒が積極的に取り組むことができた。
- (イ) 話し合い活動では、9ページにあるワークシートを利用して、文化祭の企画内容についてグループでの話し合いを行わせた。こうしたことから、生徒はクラス企画にどのようなものをすべきかについて、積極的に意見を出し合っている様子がうかがえた。しかし、生徒の中には、クラス企画の内容を具体的にイメージすることができない面も見られた。このような状況にならないように、文化祭クラス委員などに、これまでに行われた文化祭の企画について調べさせておく必要がある。
- (ウ) 文化祭実行委員とクラス文化祭委員の打ち合わせが十分に行われていないため、具体的な企画の準備や進め方までは話を進められなかった。文化祭実行委員とクラス文化祭委員との打ち合わせを十分に行うことができるように、適宜、教員から指導、援助を行うことが課題である。

ワークシート

2B文化祭企画 ワークシート	
提案者 _____	
1 企画説明	
ジャンル	
企画名(仮称)	
内容	
2 アピール (3つの原則に照らして)	
3つの原則: ①自分たちも来場者も楽しめる ②全員が役割をもつ ③思い出に残る	
3 質問対策 → チームで話し合って別紙にまとめておきましょう。 必要物品、費用、準備時間・場所、各自の負担、その他予想される問題点への対策	

2B文化祭企画 チェックワークシート			
企画A	ジャンル	提案者	
メリット		デメリット	
3原則	①自分たちも来場者も楽しめる	点	
からの	②全員が役割をもつ	点	
評価	③思い出に残る	点	
加算	主観的観点から	点	
合計			点
コメント			
採点者 _____			

カ その後の経過

(ア) 各グループで決めた企画リーダーを中心に、話し合い活動を行った。文化祭実行委員や文化祭クラス委員は企画リーダーからの報告により、各グループの活動状況を、ホームルーム前日の昼休みなどに確認することで、適宜、計画の練り直しを行うことができた。

(イ) 文化祭クラス委員は、グループごとにやるべき作業とその活動状況をロングホームルームで報告するとともにクラスに掲示して、生徒一人一人に分担以外の準備状況について理解させた。このことにより、遅れているグループに対して、他のグループの生徒がアドバイスするなど、他を思いやってコミュニケーションを取りながら、クラス全体で文化祭に取り組む態度をもたせることができた。

(ウ) 夏休み明けに11ページのアンケートを実施して、夏休み前のホームルーム活動で立てた準備計画が、どの程度まで進められたのか、各企画リーダーがグループ内のアンケートをまとめ、グループ及びクラス全体に報告することで、順調に進んでいる点や不十分な点を明確にすることができた。また、文化祭クラス委員が文化祭当日までの計画を再考して、修正することに役立てることができた。

また、アンケートを活用したことで、クラスの生徒に現状を客観的に捉えさせることができ、今後の準備に対する心構えや協力する姿勢をもたせることができた。

キ アンケート及びアンケート結果

本部会では、第1回（1学期6月）、第2回（2学期夏休み明けの9月）、及び第3回（2学期文化祭終了後の9月）の文化祭に関するアンケートを実施した。

（1）第1回アンケートの結果

6月に実施した第1回目の文化祭事前アンケートを集計し、その結果を示す。

Q1「クラス企画をどのように盛り上げるか、イメージできていますか。」という質問に対しては、60.6%生徒が「できている」と回答している。このことから、生徒はクラス企画を盛り上げていこうと意欲をもっていることがうかがえる。しかし、39.4%の生徒が「できていない」と回答しており、これらの生徒にクラス企画の具体的なイメージをもたせる必要がある。そこで、各企画リーダーに、各グループの作業内容に関連のある文化祭の過去の事例を示すなどして、グループ内での話し合い活動の活性化を図るとともに、一人一人にこれからの作業内容を確認させ、具体的なクラス企画のイメージがもてるようにした。

Q2「クラス企画をやりきる自信はありますか。」という質問に対しては、68.3%の生徒が「ある」と回答している。このことから、多くの生徒が、各自の役割分担に従って、クラス企画を責任をもって行っていこうとする姿勢がうかがえる。しかし、30.8%の生徒が「ない」と回答しており、Q1の「できていない」と回答している生徒がいる。これらの生徒は自分に自信がもてないことが考えられるため、自信をもたせる必要があると考えた。そこで、企画リーダーを中心に各グループで文化祭の計画をもう一度検討させるための話し合い活動を通して、各自の役割を再確認させると

文化祭アンケート①

Q1 クラス企画をどのように盛り上げるか、イメージできていますか。

ア できている イ できていない

Q2 クラス企画をやりきる自信はありますか。

ア ある イ ない

【理由】

Q3 これから準備に向けて、クラス及び各役割で話し合ったり、協力したりする場面が出てきます。自分の思っている意見を伝えることができますか。

ア できそう イ できなさそう

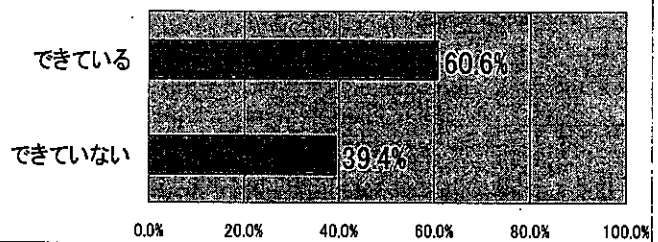
【理由】

Q4 その他、何か意見などがありましたら、自由に書いてください。

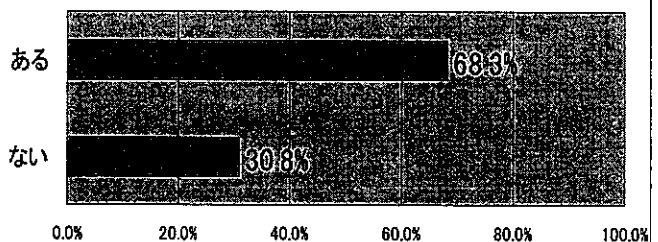
【自由意見欄】

年 組 番 氏名 _____

Q1 クラス企画をどのように盛り上げるか、イメージできていますか。



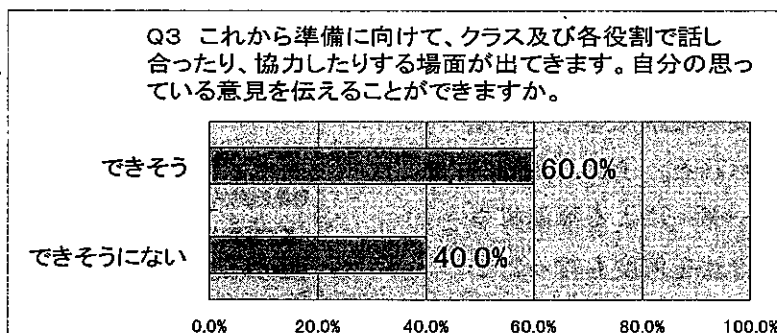
Q2 クラス企画をやりきる自信はありますか。



ともに、今後の見通しについてグループ内の生徒全員で共有することで、互いに協力し合える体制作りに努めた。

Q3「これから準備に向けて、クラス及び各役割で話し合ったり、協力したりする場面が出てきます。自分の思っている意見を伝えることができますか。」という質問に対しては、60%が「できそう」と回答しているが、40%の生徒が「できそうにない」と回答している。

こうしたことから文化祭に向けたクラス企画の取組について、クラスの他の生徒とコミュニケーションを取りながら協力していけると考えている生徒がいる反面、自分の意見などを積極的に相手に伝えていくのが苦手と思っている生徒もいることがうかがえる。そこで、生徒の苦手意識を取り除くために、話し合い活動をする際に、ワークシートを用いて、グループでの話し合い活動が活発になるよう工夫した。



(2) 第2回アンケート結果

9月の最初のロングホームルームで、第2回目の夏休み直後のアンケートを実施した。このアンケートは、夏休み中の活動状況等を把握するために実施した。各グループが夏休み中に活動できていたかどうか、及び順調に進められた理由や、進められなかった理由について調べた。その結果を次に示す。

Q3「夏休み、順調に進んだ理由は何ですか。」という質問には、第1番目に「リーダーが皆を引っ張ってくれたから」が33.9%、第2番目に「皆で話し合いができたから」が27.4%、第3番目に「計画をきちんと立てたから」が22.6%であった。このことから、クラスを活動単位ごとにグループに分けて、企画リーダーに

文化祭アンケート②

- Q1 あなたの役割分担はどれですか。
- ア 演技発表 イ 広報活動・飲食配布
ウ 垂れ幕作成伝 エ 会場準備
- Q2 あなたの役割で、夏休みの間にできたものは何ですか。
(複数回答可)
- ア 演技発表 イ 広報活動・飲食配布
ウ 垂れ幕作成伝 エ 会場準備
- Q3 夏休み、順調に進んだ理由は何ですか。(複数回答可)
- ア グループ分けをしたから イ 計画をきちんと立てたから
ウ 皆で話し合いができたから エ 皆がちゃんと集まったから
オ 皆が積極的に取り組んだから カ 皆が協力的だったから
キ リーダーが皆を引っ張ってくれたから
ク 別のチームの人も手伝ってくれたから
ケ 先生からのアドバイスがあったから
コ ワークシートがあったから サ その他
- Q4 夏休み、順調に進められなかった理由は何ですか。
(複数回答可)
- ア 何をやっていいか、分からなかったから
イ 計画を立てられなかったから
ウ 皆で話し合いができなかったから
エ 集まらなかったから
オ 人任せで取り組んだから
カ 自分の予定を優先したから
キ 進路活動(部活動)で忙しかったから ク その他
- Q5 文化祭に向けて、今後、何をしたらいいと思いますか?

年 組 番 氏名

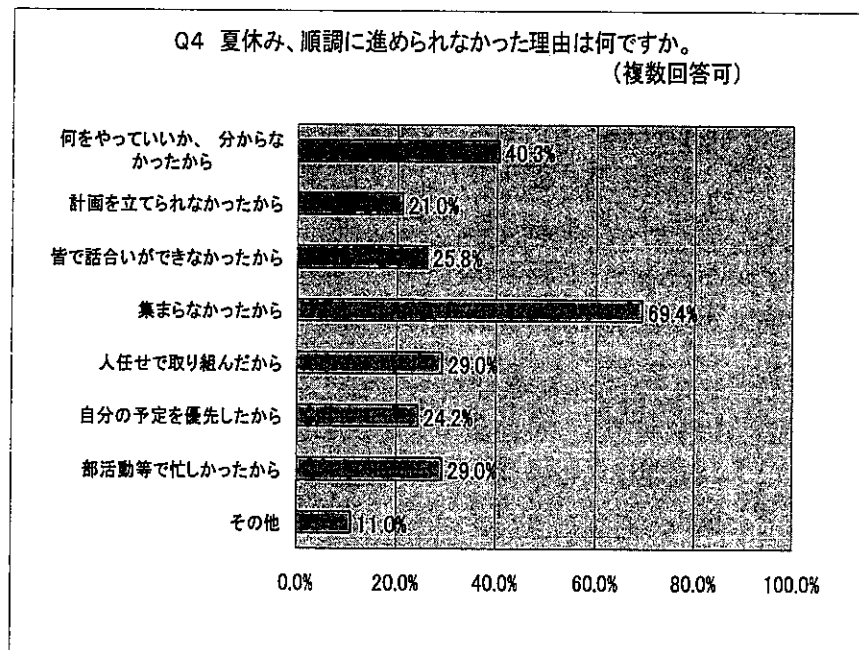
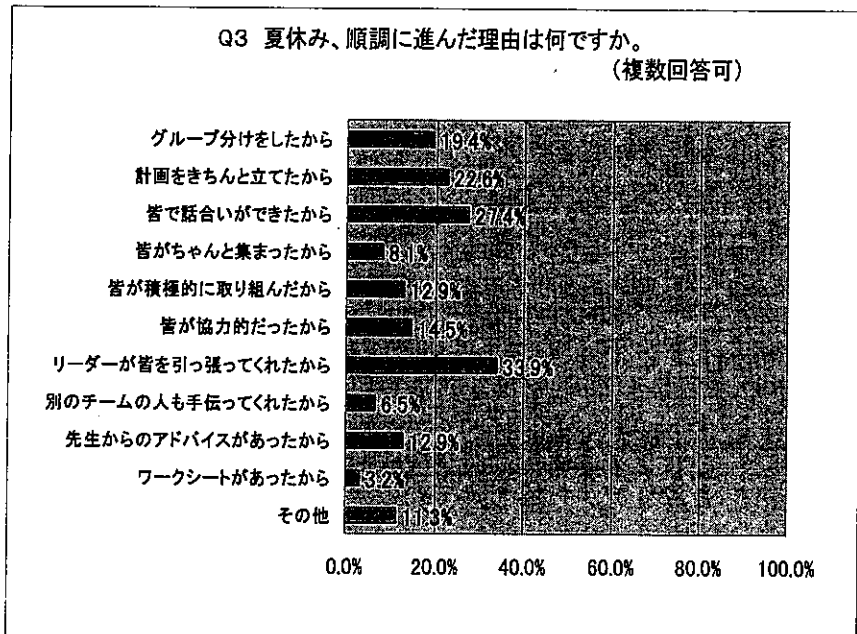
責任をもたせたことで、企画リーダーが一定の役割を果たしたと考えられる。また、企画リーダーによる事前打ち合わせを何度も行ったことも、企画リーダーの自信になったと考えられる。さらに、企画リーダーが自己の役割を理解してグループ内の話し合い活動を行えたことがうかがえる。

Q4「夏休み、順調に進められなかった理由は何ですか。」という質問には、グループの生徒が「集まらなかった」が69.4%、「何をやっていいか、分からなかったから」が40.3%であった。このことから、企画リーダーを中心に活動をしてきているが、一部の生徒だけで運営している面があり、グループ内全員の取組となっていないことがう

かがえる。これらの反省を基に、2学期以降の文化祭本番に向けてクラス文化祭委員が企画リーダーと話し合い、今後の対応について方針をまとめ、グループ内の生徒に伝え、全生徒でクラス企画を盛り上げ、やり遂げるように努めた。

(3) 第3回アンケート結果

9月の文化祭終了直後のロングホームルームで、第3回目のアンケートを実施した。このアンケートでは、2学期以降のグループ内における話し合い活動や、生徒自身のグループ作業への取組の状態、クラス企画を盛り上げられたか又、その出来栄え、文化祭を通して身に付いたと思う力などについて調査した。その結果を次に示す。



Q1「グループにおいて、話しはできましたか。」という質問には、76.9%の生徒が「できた」と回答している。このことから、夏休み中に、グループでの話し合い活動を十分に行うことができた生徒たちが、2学期になってからは積極的にコミュニケーションを図っていることがうかがえる。しかし、23.1%の生徒がグループにおいて、話し合いが「できなかった」と回答している。2学期になってからも、グループ内において、コミュニケーションを図ることに苦手意識をもつ生徒がいることがうかがえる。これらの生徒が、今後のホームルーム活動等において、積極的に話し合い活動に参加できるように、話し合い活動の方法やその際利用するワークシートを改善するなどの工夫が必要である。

Q2「グループ作業において、積極的に関わることができましたか。」という質問に対しては、75%が「できた」と回答した。このことから、Q1と同様に、夏休み中は積極的にグループでの作業に参加しなかった生徒が、2学期になってからは積極的に関わったということがうかがえる。しかし、その反面23.1%の生徒が、積極的に関わることが「できなかった」と回答している。このことから、コミュニケーションを上手に取ることでできない生徒が、クラスの作業に積極的に参加していないと考えられる。Q1と同様に、今後のホームルーム活動等において、それらの生徒がクラスの他の

文化祭アンケート③

Q1 グループにおいて、話しはできましたか。
 ア できた イ できなかった

Q2 グループ作業において、積極的に関わることができましたか。
 ア できた イ できなかった

Q3 クラス企画はどうでしたか?
 ア 充実した イ 充実しなかった
 【理由】

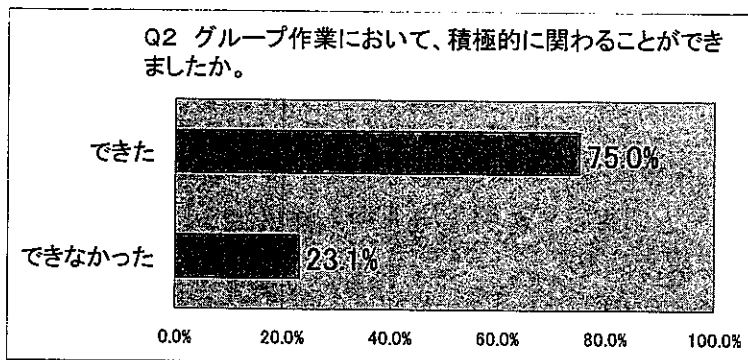
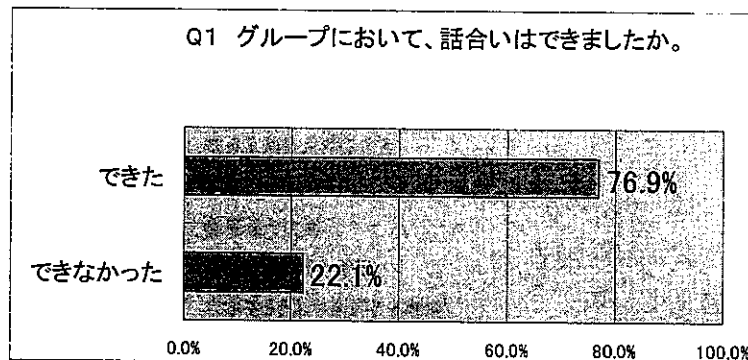
Q4 この企画を先輩に伝えたいと思いますか?
 ア 思う イ 思わない
 【理由】

Q5 文化祭を通して、あなたに身に付いたと思うものはどれですか。
 (複数回答可)

ア 考える力	イ 他者の考えをまとめる力
ウ 計画性	エ 物事を決める力
オ 行動力	カ 自分の考えを伝える力
キ リーダーシップ	ク 協力する姿勢
ケ 相手の話を聞く姿勢	コ 物事をやり遂げようとする姿勢
サ その他	

【理由】

年 組 番 氏名



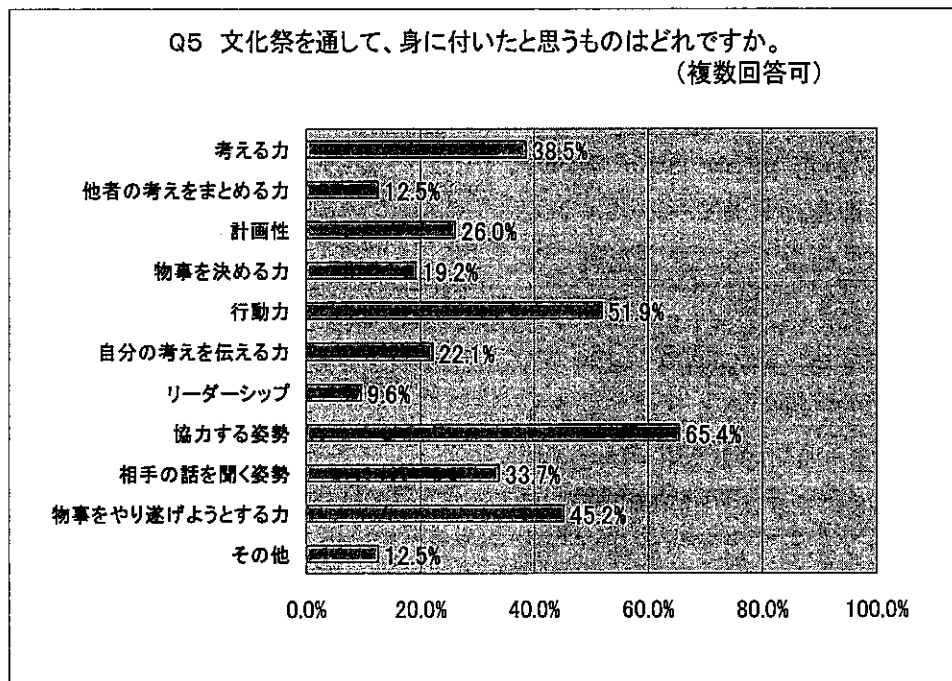
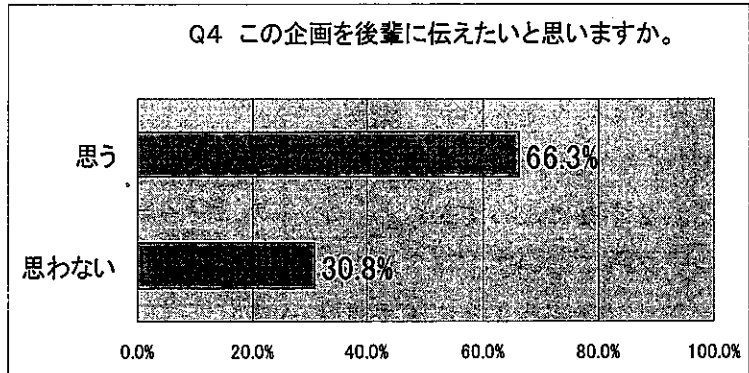
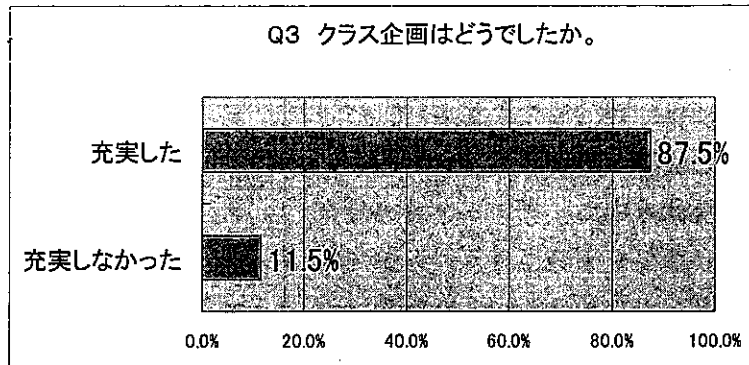
生徒と協力し、自分の役割を果たせるように、グループなどを活用して、よりコミュニケーションを図りやすい状況を整える必要がある。

Q3「クラス企画はどうでしたか。」という質問に対しては、87.5%の生徒が、「充実した」と回答している。このことから、多くの生徒が各グループで話し合い活動を行い、グループの作業に積極的にに関わり、自分の役割を果たし、文化祭においてをクラス企画を成し遂げたことに満足していると考えられる。しかし、Q1、Q2の結果ほどではないが、11.5%の生徒が「充実しなかった」と回答している。

Q4「この企画を後輩に伝えたいと思いますか。」という質問には、66.3%の生徒が「思う」と答えている。このことから、Q3の結果と同様に、生徒が文化祭でのクラスの

企画が成功したことに自信をもっている様子うかがえる。しかし、30.8%の生徒が「思わない」と回答しており、これらの生徒がどのような理由でそのように思ったのかを分析する必要があると考える。

Q5「文化祭を通して、身に付いたと思うものはどれですか。」という質問に対しては、「協力する姿勢」が65.4%、「行動力」が51.9%、「物事をやり遂げようとする力」が45.2%となっている。グループによる話し合い活動が十分に行われたことにより、協力する姿勢が養われ、積極的に行動することでき、責任をもって最後まで物事をやり遂げようとする力が生徒に備



わったと考えられる。一方、「リーダーシップ」が 9.6%、「他者の考えをまとめる力」が 12.5%、「物事をきめる力」が 19.2%の回答となっている。これらのことから、生徒の中には、他の生徒、クラス文化祭実行委員や企画リーダーに依存しており、誰かに方向性や計画などを決めてもらいたいという消極的な面があることが分かった。

キ アンケートの考察

(ア) コミュニケーション能力の向上

クラスでの文化祭準備はホームルーム活動などの限られた時間であったため、話し合い活動の際には、文化祭実行委員、文化祭クラス委員及び各グループのリーダーに事前打ち合わせをさせながら進めていった。

第 1 回目のアンケート結果では、昨年度の取組に対して反省点を挙げる生徒が見られた。「クラス企画をやりきる自信はありますか。」の問いに対しては、半数以上の生徒が「ある」と答えたが、それに対して、「ない」と答えた生徒の理由として「昨年はあまり良い結果にならなかった。」という答えが見られた。さらに、昨年度の反省点の一つに、「夏休みの活動がなかった。」というものがあつた。そこで、今回の文化祭については夏休みの活動計画表を文化祭実行委員、文化祭クラス委員及び各リーダーに作成させ、グループごとの予定表を作成させることとした。しかし、夏休み中は、一部の生徒だけの活動になってしまった。

第 2 回目のアンケート結果では、夏休みの活動が順調に進んだ理由として、「リーダーが皆を引っ張ってくれたから。」という回答が半数以上見られ、さらに「計画をきちんと立てたから。」などの理由が挙げられた。グループによっては、リーダーを中心に生徒同士のコミュニケーションが円滑に行われ、お互いに協力しようとする体制が築かれていたものであつることがうかがえる。

文化祭後の第 3 回アンケート結果では、「普段話さない人とも話すことができた」「あまり仲良くなかった人とも仲良くなることができた」などの回答があり、良好な人間関係が作られている様子がうかがえた。また、現在のホームルームの様子を見ても、男女問わず良い人間関係を築こうとする態度が様々な面でみられるようになっている。ホームルーム活動においても、以前よりも生徒の話し合い活動が活発であり、コミュニケーション能力が確実に身に付いているものと考えられる。

(イ) 思考力の向上

文化祭クラス企画の内容について話し合う、最初のホームルーム活動では、クラス全体での話し合い活動が活発に行われなかった。積極的に文化祭クラス企画を考えて、クラス全体で話を進めようとする生徒も見られなかった。しかし、グループごとに分かれて話し合い活動を繰り返す中で、生徒たちがそれぞれの自己の意見を発言できるようになった。また、リーダーを中心に、生徒一人一人が、文化祭について考えるようになった。

(ウ) 判断力の向上

2 学期が始まると、クラスの生徒たちは文化祭を目前にして、とても焦っているように感じられた。しかし、すぐに文化祭クラス委員を中心に、今後のクラスの取組についての

話し合いをさせて、リーダーを中心に各グループがどのように準備を進めればよいか決めさせた。このことにより、遅れているグループの手伝いを積極的に行うなど、生徒の成長をみることができた。また、リーダーはもとより、一人一人の生徒が周囲の状況から、これからの進行について自分で判断をして行動する様子が出てきた。

(エ) 表現力の向上

文化祭企画の内容を具体的に詰めていく際には、ホームルーム全体での話し合い活動の活性化を図り、5～7人のグループを作り、さらに自分の考えを表現しやすくするためワークシートを使い、意見交換をしながら発言をする機会を作った。グループに分かれてからの話し合い活動では、小さな集団ということもあり、他の生徒の意見を聞いたり、自分の考えを少しずつ伝えたりする様子が見られた。

今回の文化祭では、各グループを中心に企画の準備を進めてきた中で、一人一人が役割を分担して、積極的に参加するようになり、お互いにサポートし合う体制が次第に作られてきた。

第3回アンケート結果からうかがえる内容として、文化祭クラス企画について「充実していた」という感想が多く、生徒は自分の役割をやりきった満足感をもつことができたようである。そのことで自分に自信がもてるようになり、リーダーをはじめ、多く生徒が遠足のしおり作成など、その後の活動にも積極的に参加したり、学年集会でクラスをまとめる手伝いをしたりしていた。

また、各グループが話し合い活動を繰り返しながらまとめ、クラス全体で良好な人間関係を構築しようとする態度が養われた。「文化祭を通して、あなたに身に付いてと思うものはどれですか。」という質問に対しては、自分自身の行動に対する自信とともに、他者とのコミュニケーションが積極的に図られていて、生徒一人一人のコミュニケーション能力も向上したと考えられる。さらに「考える力」、「行動力」、「自分の考えを表現できる力」が付いたという回答からも、思考力、判断力、表現力も育成されたと考えられる。

(2) 実践事例2 (東日本大震災の報道を受けての生徒会活動)

科目名	生徒会活動	学年	2・3学年
-----	-------	----	-------

ア 単元(題材)名、使用教材(教科書、副教材)

生徒会活動 「文化祭企画における生徒会での取組」
～異年齢集団による交流、学校行事への協力～

イ 単元(題材)の指導目標

- (ア) 東日本大震災についての文化祭での取組を通して、グループにおける言語活動を充実させることでコミュニケーション能力を養う。
- (イ) グループでの活動を通して、組織の一員としての役割を与え、責任感のある自主的、実践的な態度を育てる。

(ウ) 集団活動や自らの実践における成功体験により、自分自身や活動に対して自信をもたせる。

ウ 単元（題材）の指導計画

本単元（題材）では、文化祭での委員会企画に参加する生徒会の活動を取り上げる。東日本大震災の報道を受けて、生徒会の役員が話し合い活動を通して、プロジェクターを用いた映像資料や展示を伴う募金活動を文化祭で行う企画である。例年、生徒会役員は文化祭にエントリーしていない。今回は新しい取組として、昼休みに行う定例会を中心に、企画の検討・決定、準備を行う。

8名の生徒会役員を2名ずつのグループに分け、それぞれの担当に応じた準備を、生徒が自主的に行えるように、調べ学習の方法を提示して促す。各自が事前に調べてきた資料を基に、定例会での話し合い活動を行う。そこでコミュニケーション能力の育成を目指し、更に信頼関係を築いていく中で、より良い人間関係を構築する態度を養う。

実施月	学習内容	学習活動	評価規準 (評価方法)
4月	・生徒会活動方針の検討・作成	・生徒総会準備期間に生徒会活動方針を検討する。 ・生徒会活動方針の原案を作成する。「文化祭において、東日本大震災の支援活動を行う」ことを決定する。	・ア①、イ②、ウ①②③（観察）
5月	・生徒総会にて生徒会活動方針の承認・決定 ・生徒会定例会で文化祭のエントリー内容の検討・決定 ・調べ学習 ・役割分担	・生徒総会の準備・運営を行う。 ・生徒会活動方針の「文化祭において、東日本大震災の支援活動を行う」ことを承認・決定する。 ・生徒会定例会で、文化祭のエントリー内容を話し合い、決定する。 ・エントリー内容の決定をするための調べ学習を行い、調べた内容の発表を定例会で行う。 ・8名を2名ずつの4グループに分けて、分担して調べ学習をさらに進めていく。	・ア②③、ウ①②③（観察） ・ア①②③、イ②③、ウ②③（観察） ・ア②③、イ②、ウ②（観察） ・イ②、ウ②（観察）
6月 本時	・生徒会定例会で調べた資料の紹介・検討	・定例会での話し合いを基に、さらに詳しく調べていく。	・ア②③、イ②、ウ②（観察） ・ア①、イ③、ウ①③、（観察）
7月	・夏休みの活動計画の立案 ・調べ学習のまとめ	・ワークシートを用いて、夏休みの活動計画を定例会で検討する。	・ウ①②（ワークシート） ・ア②③、イ②、ウ②（観察）

8月	<ul style="list-style-type: none"> ・展示資料の準備・作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・模造紙やパソコンなどを用いて、各担当の展示資料を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ア②③、イ②、ウ①②（観察）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの見直しと活動計画の再考 ・展示資料の修正 ・展示室の準備 ・文化祭当日の運営 ・文化祭終了後の義援金の寄付（生徒会新聞の発行） ・今回の活動の振り返り（レポート作成） 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で展示資料を再確認して調整を行う。 ・各自で展示資料を修正、決定する。 ・生徒会室の清掃・展示準備をする。 ・当日の部屋当番の検討、決定をする。 ・集まった義援金の集計、送金をする。 ・4月からの活動を通しての感想レポートを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ア①③、ウ②（ワークシート） ・ア③、イ②、ウ③（観察） ・ウ①（観察） ・ア②、ウ①②（観察） ・ア②、ウ③（観察） ・イ②③（レポート）
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での再展示 ・次期生徒会役員への引継ぎ 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒へ向けて校内において再度展示を行う。 ・次期生徒会役員へ文化祭での活動の継続・発展を引き継ぎ事項として検討、決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イ②、ウ①③（観察） ・ア①③、ウ①③（観察）

(7) 役割分担について

生徒会役員8人の生徒を2人ずつ4グループに分け、それぞれに役割を割り当てる。このことにより、生徒に問題意識や責任感をしっかりとめさせる。また、担当教員が、必要なグループに指導・援助することで、作業に取り組みやすくするだけでなく、相互に協力できるようにする。また、自分のグループがやり遂げた成果を展示物等の形に表すことで、生徒自身が達成感・成就感を感じ、今後の活動における意識につながるようにする。



定例会の様子

(1) 定例会と調べ学習

生徒会役員は、毎週2回程度の定例会を昼休みに生徒会室で行う。定例会では、企画の検討から始まり、展示内容の検討・決定、展示内容の調べ学習の報告などを行う。展示内

容の調べ学習では、各自にインターネットや図書館の資料などを利用して調べるよう助言していく。各自が調べた内容を資料にまとめ、定例会でこれらの資料を基に、報告することで、生徒会役員間での情報の共有化を図る。その際、定例会で調べ学習の内容を報告するとともに、質問や意見をお互いに出し合い、これらの意見などを基に、更に調べ学習を深めさせるようにする。

このように、生徒間や生徒と教員間でのコミュニケーションの機会の充実を図ることが、企画内容の充実につなげるとともに、生徒自身の思考力・判断力・表現力を豊かにし、望ましい人間関係を築いていくことができると考えた。

エ 本時（6月の定例会）

(7) 本時の目標

- ① 調べてきた内容の発表を行い、質疑応答を含めた話し合い活動から、次の調べ学習への方策を考えさせる。
- ② 二人で構成されたグループでの話し合い活動を通して、基本的なコミュニケーション能力を身に付けさせる。
- ③ 定例会の充実により、生徒間及び生徒と教員間の信頼関係を築く。

(4) 本時の展開

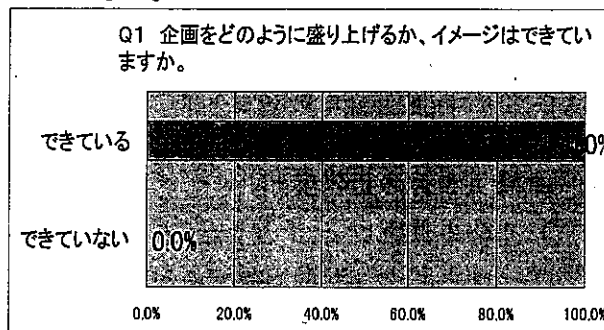
過程	時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準
導入	2分	・前時の振り返り ・各自が調べてきた資料の配布	・前回調べた内容を思い出させる発問を行う。 ・発表後に質問や意見が出せるように、数値、グラフなど、資料を読む観点に注意させる。	・ア③（観察） ・ア③、イ① ウ①（観察）
展開1	15分	・調べてきた資料を基に発表 ・質疑応答	・資料をただ読み流すのではなく、要点を簡潔に話したり、図や表の読み取り方などを話したり工夫をさせることで、聞いている人に分かるように説明を行わせる。 ・できるだけ質問や意見を出せるように時間を与える。 ・必要に応じて、調べ学習の方策を教員からも指導する。	・ア①②③、 イ③（観察） ・ア①②③ イ①②③ ウ①②③ （観察）
展開2	10分	・グループでの話し合い活動	・グループごとの活動内容を明確にできるように話し合いを促す。	・ア①②③、 イ①②③、 ウ①②③ （観察）
まとめ	3分	・本時のまとめ	・次回の定例会の日程と、準備する内容の確認を確認する。	・ア②、イ③、 ウ③（観察）

オ 本時の振り返り

- (ア) 調べ学習の発表の際、質疑応答の場面で、調べ学習の成果を発表者自身が理解できているのか確認させることができた。同時に質問している生徒の思考を刺激することができた。
- (イ) グループごとに役割分担を行うことで作業内容や目標が明確になり、個々の生徒の役割が決まっているため活動を活性化させることができた。

カ アンケート結果（アンケート用紙は実践事例 1 を参照）

本部会では、生徒会役員においても、クラスで実施したアンケートと同様に、第1回（1学期6月）、第2回（2学期夏休み明けの9月）、及び第3回（2学期文化祭終了後の9月）回実施した。

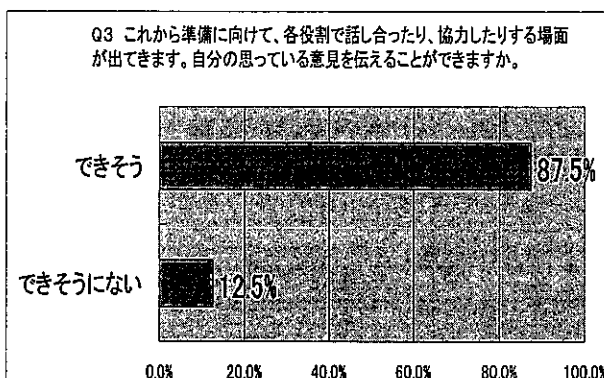


（1）第1回アンケート結果

6月に実施した、第1回目の文化祭事前アンケートを集計し、その結果を示す。

Q1「企画をどのように盛り上げるか、イメージできていますか。」という質問には、100%の生徒が「できている。」と回答した。生徒会役員という意識の高い生徒であるため、全員が文化祭企画を盛り上げていこうと意欲をもっていることが分かる。

同様に、Q2「企画をやりきる自信はありますか。」という質問に対しても、100%の生徒が「ある」と回答した。Q1同様に、生徒全員が文化祭企画をやりきる自信をもっ



ていて、積極的に取り組もうとする姿勢がうかがえる。さらに、Q3「これから準備に向けて、各役割で話し合ったり、協力したりする場面が出てきます。自分の思っている意見を伝えることができますか。」という質問に対しては、87.5%の生徒が「できそう」と回答している。生徒は、文化祭企画の準備を進める際に、他の生徒とのコミュニケーションが順調に行われると考えていることがうかがえる。しかし、12.5%（1名）が「できそうにない」と回答している。このことは、文化祭企画を成功させる意欲はあるものの、他の生徒とのコミュニケーションを上手く図れるかどうか不安に思っている生徒がいると考えられる。このような生徒が、

他者とコミュニケーションを図れるように、話し合い活動の内容や調べ学習の方法などを工夫し、他者と協力する場面を増やすなど工夫していく必要がある。

(2) 第2回アンケート

結果

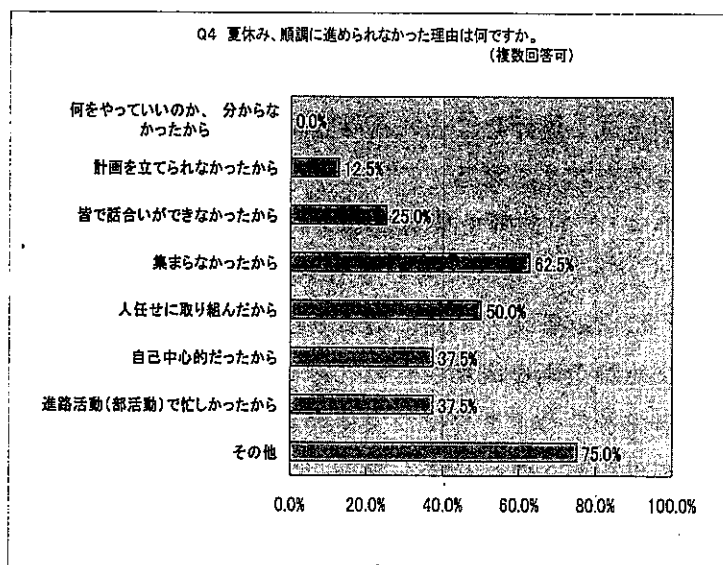
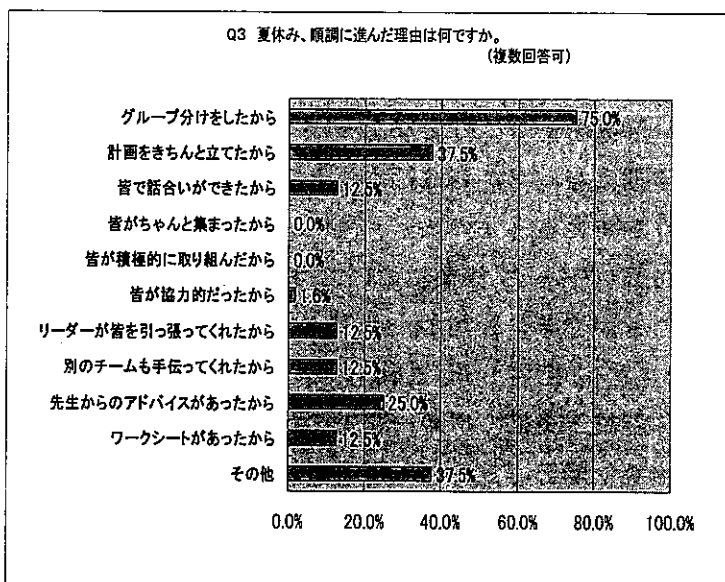
第2回目のアンケートを、夏休み直後の9月に実施し、夏休み中の各グループの活動の状況等について調査した。その結果を示す。

Q3「夏休み、順調に進んだ理由は何ですか。」という質問に対しては、第1番目に「グループ分けをしたから」が75%、第2番目に「計画をきちんと立てたから」が37.5%、第3番目に「先生からのアドバイスがあったから」が25%であった。このことから、二人という少人数のグループに分けて活動させることで、活動がより活発に行われたものと考えられる。また、その他として「完成を想像し、逆算して行動していた」との記述があり、積極的に活動している様子がうかがえる。さらに、「自分の役割をきちんとやったから」、「個人ががんばったから」という記述があり、役割分担を明確にしたことで、一人一人の生徒会役員が意欲的に活動を行っている様子がうかがえる。

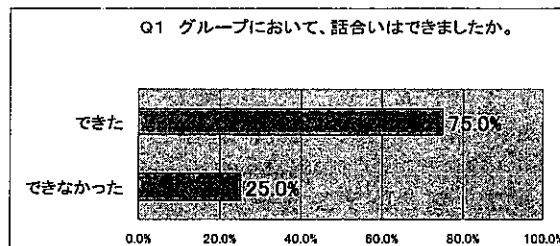
Q4「夏休み、順調に進められなかった理由は何ですか。」という質問に対しては、第1番目に「集まらなかった」が62.5%、第2番目に「人任せで取り組んだから」、第3番目に「自己中心的だったから」、「進路活動(部活動)で忙しかったから」がそれぞれ、37.5%の回答があった。このことから、生徒は全員、文化祭企画の準備のために、自分の役割を自覚しているものの、集団としては夏休み中に集まることができず、二人一組のグループの中に積極的に活動することができなかったグループがあった。このことから、グループ毎の進捗状況を把握させながら、グループ内のメンバーの組合せなどの見直しを適宜していくことが重要である。

(3) 第3回アンケート結果

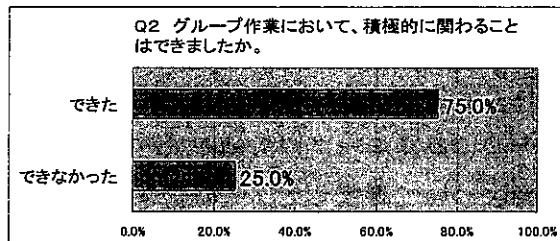
第3回目は文化祭終了後のアンケートを集計し、その結果を示す。



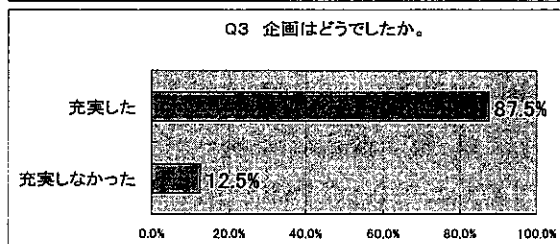
Q1「グループにおいて、話し合いはできましたか。」という質問に対しては、「できた」が75%回答であった。これは、夏休みに、話し合い活動を十分に行えなかったグループが、2学期になってからは行うことができたことがうかがえる。



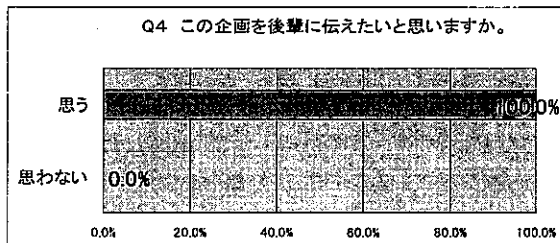
Q2「グループ作業において、積極的に関わることができましたか。」に対しては、75%が「できた」と回答した。これも、Q1と同様に、夏休み終了後に、グループでの作業に生徒が積極的に関わったということを示している。



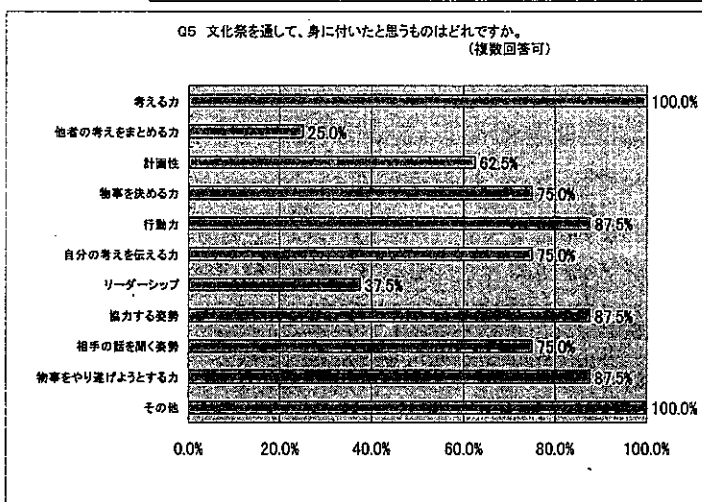
また、Q3「企画はどうでしたか。」という質問に対しては、「充実した」と回答している生徒が87.5%であった。各グループで話し合い活動を行い、作業に積極的に関わり、文化祭企画を成し遂げたことに生徒が満足した結果であると考えられる。



Q4「この企画を後輩に伝えたいと思いますか。」という質問に対しても100%の生徒が「思う。」と答えている。Q3と同様に、生徒が文化祭企画を成功させたことで



自信をもつとともに、生徒会として文化祭企画へ今後も参加していくことを継続させる必要があると考えていることが分かった。



Q5「文化祭を通して、身に付いたと思うものはどれですか。」という質問に対しては、全員が「考える力」を挙げている。その他として「他者と調整する力」、「言いたいことを言い合えた」などの記述があり、コミュニケーション能力の向上に関わるものが見られた。

キ 考察

(7) コミュニケーション能力の向上

文化祭の企画を決めた当初から東日本大震災について、「自分たちも知っておかなければいけない。」「みんなに知ってもらいたい。」という調べる事柄に対する関心は大きなものであったが、生徒たちは作業を進めていく中で、「日程が合わずなかなかグループの人と話し合えなかった。」「決められた仕事ができなかった。」など、集団でものごとを進めていく上

での現実的な問題にぶつかっていた。

しかし、振り返りで行ったアンケートやレポートでは「よいものができた。」「先輩との連携ができてよかった。」「来場者の方からたくさんの言葉を頂けて嬉しかった。」「成長できた。」「話し合いを繰り返し、他者の考えや自分の伝えたいことが言えたり、考えたりできた。」などの記述が見られ、生徒は達成感を得たことが分かった。

準備が順調に進んだ理由として、アンケートに「グループ分けをしたから。」「夏休み前からみんなで調べ物をして、準備を着々と進めているから。」「調べた知識、集めた資料を共有しているから。」などの意見があった。グループごとに生徒が集まる機会を増やし、回を重ねるごとに活発な話し合い活動が行われ、コミュニケーションが活性化したと考えられる。

(イ) 思考力の向上

ワークシートを活用することで、「完成を想像して、逆算して行動していた。」「計画通りにできなかった。」など、作業の進行に関する意見が出されたことから、生徒はワークシートを活用することで、作業の進行状況を意識し、行えるようになったと言える。また、再検討するためにも活用されていた。このことから、ワークシートを活用することは、思考力の向上につながるものと考えられる。今後は、更に効果的に生徒がワークシートを活用できるように、内容の検討と同時に、生徒への指導の方法を工夫することが必要である。

(ウ) 判断力の向上

今回の取組では、生徒に対して調べる内容や分量などにノルマを設けることはしなかった。それは生徒の自主的・実践的な態度を育成するとともに、生徒会という性質上、自発的・自治的な活動の活性化などを考え、調べ学習の方法を示すなどの指導を心がけたからである。その結果、ある生徒の活動を見て、別の生徒がアドバイスをしたり、積極的に参加しようとしたりするように感化されていく様子を見ることができた。それぞれが、自主的に判断する力を養うことができたと思われる。さらに、生徒の中には、インターネットや、ワープロやプレゼンテーション用ソフトを用いた資料作成を考えるなど、よりよい資料を作成するために生徒が主体的に考え、判断し行動することができた。

(エ) 表現力の向上

生徒会活動の話し合いの機会を増やすことで、自分の意見を表現する機会が多くなった。話し合い活動は活発になりコミュニケーション能力、表現力が向上したものと考えられる。

生徒会活動に積極的に参加する生徒はもともと、学校全体のリーダーとしての自覚をもっている。文化祭などにおける特別な取組は、地域ボランティアへの参加や、パワーポイントを使った中学生に対する学校紹介など、その力を更に伸ばすことが今回の検証でも明らかとなった。

生徒の感想から生徒同士の信頼関係も徐々に形成され、よりよい人間関係を築くための態度を養うことができたものと考えられる。今後は、生徒自身が活動内容の見通しをさらに明確にもてるような指導の工夫をすることで、一層、生徒が主体的に参加できる生徒会活動の充実が求められる。1年間という任期ではあるが、生徒自らが後輩たちへと引き継いでいけるような組織作りを目指していくことが重要である。

VI 研究の成果

本研究は、特別活動において、コミュニケーション能力を育むことにより、集団において生徒一人一人の思考力、判断力、表現力が育成され、学校やクラスでの活動を明るく豊かにして、より良い人間関係をつくる態度や能力を養うことができるのではないかという仮定のもと、話し合い活動の指導の工夫について研究を行なった。

実践事例1では、クラス内の組織づくりと自主的な活動、コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立を中心に進めたものである。グループ単位での話し合い活動をきっかけとして、ワークシートの活用による計画的な準備、役割分担の明確化、リーダーによる集団の牽引など、生徒が主体的に活動できる環境を整えた。この活動の中で、グループ単位でコミュニケーションの機会の充実を図り、自ら考え、行動し、協力しながらクラス企画をやり遂げるという過程を経験させることができた。その結果、生徒は大きな達成感を感じるとともに、コミュニケーションが図られ、クラス内の人間関係が深まる様子も見られた。

実践事例2では、8人で構成された生徒会役員における文化祭への取組を実践研究した。少人数によるコミュニケーションの機会や、昼休みの定例会の機会を意図的に設定するなど、少人数であることを生かし、またICT機器を活用した展示資料・視覚資料の作成など新しい内容で取り組むことができた。

アンケートの結果から、コミュニケーションの機会の充実や、主体的な参加の姿勢があったこと、クラスや生徒会の人間関係や活動の深化が分かり、特別活動を通してコミュニケーション能力が育成され、よりよい人間関係を構築する能力や態度が育成されたと考えられる。さらに「考える力」、「物事を決める力」、「自分の考えを伝える力」を身に付けることができたという回答から、思考力、判断力、表現力が育成されたと考えられる。

VII 今後の課題

コミュニケーション能力は、多様な他者との共生が望まれる時代において、主体的に自分の意見を自分の言葉で表現し、相手の意見をしっかりと受け止めることであり、よりよい人間関係を構築するために必要な力である。今回の実践研究では、ホームルーム活動や生徒会活動において、グループ分けをして、話し合い活動の活性化を図り、コミュニケーション能力の育成をねらいとしたが、文化祭に関する活動に限られていた。コミュニケーションの機会を充実させるために、様々な機会を活用して、継続的に指導することが今後の課題であり、指導内容や方法を検討し、さらに、コミュニケーション能力を育成することが必要である。

また、今回の研究においては、ホームルーム活動と生徒会活動の話し合い活動について、同じ観点から評価することをねらいとし、統一の評価規準を作成した。しかし、その活用や効果の検証は不十分であった。今後は各学校が活用できる特別活動の各活動・学校行事に対する、より詳細な評価規準を作成し、研究を進めていくことが課題である。

平成23年度 教育研究員名簿

高等学校・特別活動

学校名	課程	職名	氏名
東京都立八王子北高等学校	全日制	主任教諭	◎尾崎 守
東京都立東村山西高等学校	全日制	教諭	○依田亜紀子
東京都立大崎高等学校	全日制	教諭	加藤 真弥
東京都立上水高等学校	全日制	教諭	北村 洋

◎ 世話人 ○ 副世話人

[担当] 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課
指導主事 堀江 敏彦

平成 23 年度
教育研究員研究報告書

高等学校 特別活動

東京都教育委員会印刷物登録

平成 23 年度第 181 号

平成 24 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 有限会社 シーダー企画